

平成 29 年度厚生労働科学研究費がん対策推進総合研究事業
「がん研究 10 か年戦略の進捗評価に関する研究」総括・分担報告書
研究代表者：藤原康弘

平成 30 年 5 月 30 日

サマリー

【背景と目的】がん対策推進基本計画に基づく新たながん研究戦略として文部科学省、厚生労働省、経済産業省の 3 大臣確認のもと、平成 26 年 3 月に「がん研究 10 か年戦略」が策定された。当該戦略では、患者・社会と協働するがん研究を念頭において、がんの根治・予防・共生の観点に立ち、がん対策推進基本計画の全体目標を達成することを目指している。この戦略に則り、「ジャパン・キャンサーリサーチ・プロジェクト(JCRP)」(AMED 所管)が平成 26 年より開始され、がんの本態解明等に係る基礎研究からがん医療の実用化を目指した研究開発まで、関係府省一体となった取組が進められている。

がん研究 10 か年戦略は、がん研究の進捗状況や、国内外のがん研究の推進状況の概要、がん患者をはじめとする国民のニーズ等を適確に把握したうえで、「がん対策推進基本計画」の見直しも踏まえ、本戦略の中間評価と見直しを行う、こととしている。本研究班の目的は、これまでの戦略に関する進捗状況や成果をまとめて戦略見直しのための中間評価を行い、今後、がん研究をさらに推進するために必要な研究領域や分野、課題等を明らかにすることである。

【対象と方法】対象の研究事業は、JCRP の 5 つの研究事業(次世代がん研究シーズ戦略的育成プログラム 152 課題、次世代がん医療創生研究事業 137 課題、革新的がん医療実用化研究事業 628 課題、未来医療を実現する医療機器・システム研究開発事業 7 課題、臨床ゲノム情報統合データベース整備事業 4 課題)と、厚生労働科学研究費補助金(がん対策総合推進研究事業 65 課題)の計 6 つの研究事業である。

対象の研究年度は、平成 26 年から平成 28 年までの 3 年間で、個別の研究課題でなく各研究事業の分野・領域ごとに進捗を評価した。評価は、各研究分野・領域での顕著な成果とその波及効果、進捗が不十分な研究や不足していた課題設定とその理由、CSO(Common Scientific Outline)分類(がん研究の目的別分類を用いた分析手法)・臓器分類によりファンディングの全体像把握と国際比較といった観点から行った。また、次期において新たに追加すべきあるいは継続して強化すべき課題や、研究事業の運営上の改善点についても検討した。

評価の進め方としては、AMED の研究事業に関しては、AMED 所管課に、各研究事業の公開されている成果報告書や研究課題リスト等のデータ提供と研究事業の進捗・成果の取りまとめを依頼した。がん対策推進総合研究事業に関しては、厚生労働省健康局がん・疾病対策課に公開されている成果報告書等と研究課題のリスト等のデータの提出を依頼し、当研究班で研究事業の進捗と成果を取りまとめた。

まず、研究班の中で、研究者の視点から成果の調査・分析を行い、各研究事業の成果や課

題等及び、がん研究 10 か年戦略の戦略目標に対する進捗評価と運営体制における課題の抽出を行った。ついで、JCRP 研究事業の PD/PS/PO やがん対策総合推進研究事業事前評価委員会や中間・事後評価委員会の委員長、がん専門学会理事長、全国がん患者団体連合会理事長など有識者に対して、「過去の振り返り」と「今後に向けて」の 2 つの観点から意見のヒアリングを行い、成果や不足していた課題、今後の提案を取りまとめた。

【結果と考察】

1) まず、6 つの研究事業に関して、研究班の調査分析や PD/PS/PO へのヒアリングにより、全体としておおむね期待通り進捗していることが明らかとなった。また、これまでの顕著な研究成果やその波及効果を示すとともに、新たに追加すべき及び持続して強化すべき研究課題や、運営面での問題点も明らかとした。具体的な研究課題や提言に関しては、本篇を参照していただきたい。

2) ついで、がん研究 10 か年戦略に関連する研究事業の全体・共通部分として、がん研究 10 か年戦略の戦略目標に対する進捗評価、JCRP の中間目標・成果目標に対する進捗評価、がん研究 10 か年戦略における研究事業間の連携、JCRP の研究開発について、PD/PS/PO 制度、事業・研究基盤の構築、企業とアカデミアの連携、国際連携・国際化、人材育成に関して問題点を明らかとした。

3) さらに、がん研究推進状況外観として CSO 分類による厚生労働省・文部科学省・AMED のがん研究費の経年比較や国際比較を行い、各研究事業のファンディング面での特性を明らかとした。

4) 最後に、まとめとして、JCRP 研究事業とがん対策総合研究事業の運営面での提言と今後取り組むべき研究についてまとめた。

JCRP 研究事業の運営面での提言としては、導出指向型研究に重きが置かれているが本態解明に資する基礎研究も同様に重視すること、薬事承認を目指す開発研究は早期に企業との連携・導出を促す取り組みを構築すること、希少がんなど患者数が少ない臨床試験の付随研究ではデータシェアリングの仕組みを構築すること、事前評価では事前評価員の数・質を確保し評価の標準化を徹底すること、課題設定に関しては患者・市民の意見を反映させる仕組みを構築すること、JCRP 研究事業と厚労科研がん対策総合推進研究事業を俯瞰的に見て課題設定や研究の進捗管理・評価を行う仕組みが必要なこと、PO の人材確保のために現役の研究者が PO となれる仕組みを構築すること、現行の研究レジデント制度は研究支援の面が強く人材育成に資する体制を検討すること、などが提言された。

がん対策推進総合研究事業の提言としては、課題の進捗管理から評価までを一元的に管理する工夫を講じること、普及・実装科学研究や施策の評価を中心に行うこと、JCRP 研究事業との間で研究領域や研究費配分の関係を見直すこと、が提言された。

また、本研究班により H26-H29 年度研究課題のデータベース(研究課題リスト、配分額、公募要項、PD/PS/PO リスト等)の構築も行い、一部を参考資料として添付した。

目次

サマリー	1
1. はじめに	5
1.1 報告書の作成経緯	5
1.2 がん研究10か年戦略の概要	8
1.3 ジャパン・キャンサーリサーチ・プロジェクトの概要	10
2. 目的	19
3. 方法	19
3.1 評価の対象研究事業	19
3.2 評価の対象年度	20
3.3 評価の指標	20
3.4 評価の進め方	20
4. 結果と考察	26
4-1. 各研究事業の進捗	26
4-1.1 次世代がん研究シーズ戦略的育成プログラム	26
4-1.2 次世代がん医療創生研究事業	27
4-1.3 革新的がん医療実用化研究事業	32
4-1.4 未来医療を実現する医療機器・システム研究開発事業	40
4-1.5 臨床ゲノム情報統合データベース整備事業	42
4-1.6 がん対策推進総合研究事業	45
4-2. 全体・共通部分	56
4-2.1 がん研究10か年戦略の戦略目標について	56
4-2.2 JCRP の中間目標・成果目標について	59
4-2.3 がん研究10か年戦略における研究事業間の連携	60
4-2.4 JCRP の研究開発について	61
4-2.5 PD/PS/PO 制度	62
4-2.6 事業・研究基盤の構築	63
4-2.7 製薬企業とアカデミアの連携	64
4-2.8 国際連携・国際化	65
4-2.9 人材育成	65

5. がん研究推進状況概観 (CSO 分類)	68
6. 提言のまとめ (4からの再掲)	90
6.1 JCRP の研究事業の運営面での提言	90
6.2 がん対策総合推進研究事業の運営面での提言	91
6.3 JCRP の研究事業において今後取り組むべき研究課題	91
6.4 がん対策総合推進研究事業において今後取り組むべき研究課題	92
7. 参考資料	94
JCRP 説明	94
JCRP 各研究事業説明図	95
PD/PS/PO	99
採択課題一覧	102
8. 研究成果の刊行に関する一覧表	200